発見！探検！まるわかり！

興田まっぷ

OKITA MAP

神社・仏閣・史跡編

「興田神社の御神木（根廻り約7.6m）」　Photo by Kazuyoshi Oyama

はじめに

興田地区振興会は、「未来へつなぐ 住みよい興田」を目指し、地域づくり計画を策定しその推進を図っているところです。

この度教育文化部会では、過去を受け継ぎ、伝えるために「発見！探検！まるわかり！興田まっぷ」を作成しました。地域の方々など多くの人が興田の先人の思いにふれ、郷土興田の良さを再認識して頂ければ幸いです。

平成31年3月　興田地区振興会　会長 伊東 三四司

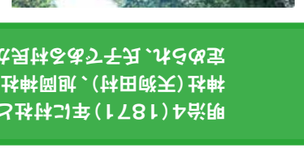
仏閣

大東地域の寺は地元の武士によって建てられ、開山当時はほとんどが天台宗だったが、歴史の変遷を経て改宗し、現在の興田地区は曹洞宗が多い。

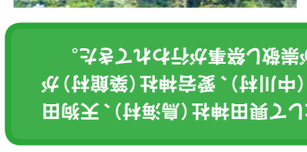
明治4（1871）年に村社として興田神社（鳥海村）、天狗田神社（天狗田村）、旭岡神社（中川村）、愛宕神社（築館村）が定められ、氏子である村民が崇敬し祭事が行われてきた。

1 興田神社〈お勢見様〉（小山）
養老元（717）年、鎮守府将軍大野東人の勧請と伝えられ、妙見宮と崇称される。昔は妙見山法眼寺を号したが、明治維新になって興田神社と改称。源在に至る。天正2年に焼失し、現在の社殿は大正11年に落成した。正月行事に蘇民祭を行い、県指定有形文化財の銅鰐口と金銅製前立を有する。（三級社）

12 天狗田神社（天狗沢）
神亀元（724）年、鎮守府将軍大野東人の創建と伝え、水害の災、日月の変、盗賊、流行病、昆虫獣類の害を防ぐ霊験あらたかな祭神。延元（1688）年、明和元（1764）年、文化元禄元（1804）年に修改築するが、度々火災にあい、昭和の始めに再建されたが、昭和23年に再建された。（三級社）



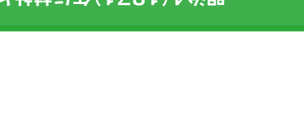
13 旭岡神社（菅ノ沢）
口伝によれば、永禄元（1558）年現在地に遷座したとされる。寛文元（1661）年、元禄元（1688）年、明和元（1764）年、文化元（1804）年に修改築するが、度々火災にあい、昭和の始めに再建されたが、現在の社殿は大正11年に落成した。正月行事に蘇民祭を行い、県指定有形文化財の銅鰐口と金銅製前立を有する。（三級社）



14 愛宕神社（下構）
封内風土記によれば、愛宕大権現草創歴代は不詳。伝えによれば、元永2（1119）年の建立。天正年中（1573−1592）及川氏滅後、築館村の及川庄吉の祖先が祀ったとも伝える。（四級社）

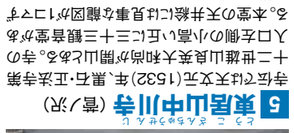
5 東居山中川寺（菅ノ沢）
ひがしこやまなかがわじ
寺伝ではスヤ元（1532）年、黒石・正法寺第十二世雄山良英大和尚が開山とある。寺の入口左側の小高い丘に三十三観音堂がある。本堂の天井絵には月事な龍図がトコマヅつ描かれている。

6 三十三観音堂（菅ノ沢）
中川寺境内にある御堂。縁結び(信仰)があり、大正時代までは正月やお盆の16日に参詣の若い男女で賑わったので、抽引き観音と呼ばれた。31体が現存し、すべて木像漆箔である。

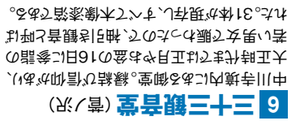


7 不動堂〈滝不動〉（野田）
本尊は一木造りの不動明王立像（高108cm。左右に二童子を従えている。渡辺大祐が京都から仏像を3年かけて運んだ。詳しくは裏面参照。

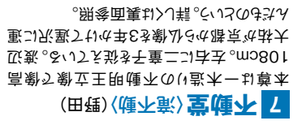
8 不動堂〈お不動様〉（小黒滝）
名所小黒滝の対岸にある御堂。お不動様と呼ばれ、その中に3つの祠があり、真ん中がお不動様。手前には移羅童子制吒迦童子が並び、不動三尊像の形を整えている。

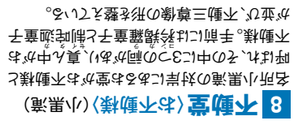


9 [廃寺] 深伝山月照院（根岸）



10 [廃寺] 愛宕山地蔵院（川又）





1 渟沢山安昌寺（新城）
寺伝では明応3（1495）年、黒石・正法寺第十世源庵良悦和尚を迎えて現在地に開山とある。本堂の天井絵（花鳥や龍、鶴など）は今も色彩鮮やかで見事。境内にある樹齢150年余の枝垂桜が春を彩る。

2 興田山西光寺（西舘）
こうでんさんさいこうじ
天文元（1532）年、大原・長泉寺の第八世天誠闇察和尚によって開山。境内には寛延元（1748）年に古戸屋敷の小山卯左衛門が寄進した青銅製薬師如来坐像の霊座仏、樹齢400年余の伽羅の木が目を引く。ドラ猫にまつわる昔話があある。

3 松峰山照覚院（本宿）
しょうほうさんしょうかくいん
天文元（1532）年、大原・長泉寺の第八世誠闇察和尚によって開山。昭和55（1980）年の本堂修復時に天井絵が蘇った。動物・野草樹木の他、刀剣・農具・仏具などの生活用具が色彩豊かに描かれている。

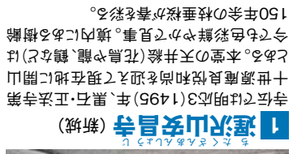
4 鳥海山龍門寺（古戸前）
りゅうもんじ
寺伝では現在地にあった真言宗長福寺を庶し、天文3（1534）年、大原・長泉寺第八世天誠闇察和尚を迎えて開山した。山門両脇に仁王像、境内に霹靂仏、本堂に十六羅漢像を安置。碁天井の花鳥絵、欄間の透かし彫りが見事である。

11 興田神社〈お勢見様〉（小山）
養老元（717）年、鎮守府将軍大野東人の勧請と伝えられ、妙見宮と崇称される。昔は妙見山法眼寺を号したが、明治維新になって興田神社と改称。源在に至る。天正2年に焼失し、現在の社殿は大正11年に落成した。正月行事に蘇民祭を行い、県指定有形文化財の銅鰐口と金銅製前立を有する。（三級社）

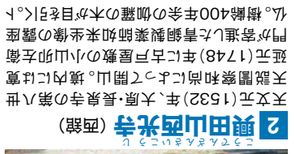
12 天狗田神社（天狗沢）
神亀元（724）年、鎮守府将軍大野東人の創建と伝え、水害の災、日月の変、盗賊、流行病、昆虫獣類の害を防ぐ霊験あらたかな祭神。延元（1688）年、明和元（1764）年、文化元（1804）年に修改築するが、度々火災にあい、昭和の始めに再建されたが、現在の社殿は大正11年に落成した。正月行事に蘇民祭を行い、県指定有形文化財の銅鰐口と金銅製前立を有する。（三級社）

13 旭岡神社（菅ノ沢）
口伝によれば、永禄元（1558）年現在地に遷座したとされる。寛文元（1661）年、元禄元（1688）年、明和元（1764）年、文化元（1804）年に修改築するが、度々火災にあい、昭和の始めに再建されたが、現在の社殿は大正11年に落成した。正月行事に蘇民祭を行い、県指定有形文化財の銅鰐口と金銅製前立を有する。（三級社）

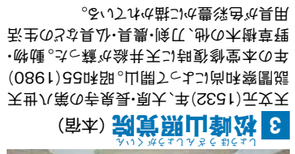
14 愛宕神社（下構）
封内風土記によれば、愛宕大権現草創歴代は不詳。伝えによれば、元永2（1119）年の建立。天正年中（1573−1592）及川氏滅後、築館村の及川庄吉の祖先が祀ったとも伝える。（四級社）



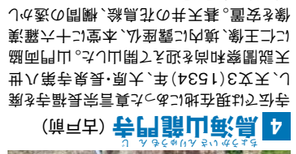
15 八坂神社（弓細工）
永禄元（1558）年、里人が近江国粟田より祇園守護神牛頭天王を分霊勧請し、摩美沢屋敷佐々木氏の氏神とされるが、火災により全て焼失した。豊作、武運長久、家内安全の祈願所として、特に疫病神として崇敬を受ける。（四級社）



16 秋葉山神社（清水）



17 田河田山神社（田河田）



18 川又天満神社（川又）

19 宇南権現〈田神社〉（小向）

20 神武天皇（下前田野）

21 羽黒社（日向）

22 愛宕神社（東丑石）

23 山神神社（東丑石）

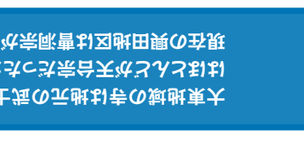
24 剣山神社（薄山）

25 八坂神社（小綱）

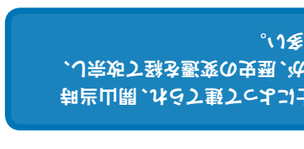
26 久子沢道祖神宮〈ドッコサマ〉（久子沢）

27 荒川駒形神社（篠ケ崎）

28 熊明宮日月神社（上ノ山）



29 川又八幡大煙根神社（川又）

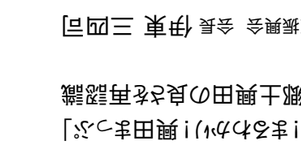


城館

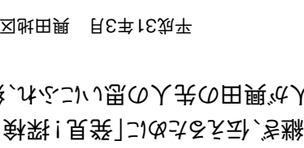
平安末期、興田川流域は興田保と呼ばれ、中世には及川氏が領地を与えられ本拠とした。かくして防御と見張りの要衝として各地に城館が建造され、水様年間における各戦の後、領地は豊臣氏に接収され、刀狩りの実施と共に城館は取り壊されていった。

30 柏木館〈柏木城、鳥海城、東館〉（日蔭）
31 川嶋館〈鳥海柵、川股城、川股館、西館〉（西舘）
32 美女森館（古戸前）
33 祖母館〈馬場館、乳母館〉（小山（中学校））
34 古谷館（小谷）
35 伊勢館〈オイセ館〉（清水）
36 若宮館（川又）
37 構館（月館、築館）（下構）
38 花崎館〈中川館、花館、華崎館、古牧館、小間木沢館〉（中大畑）
39 要害館〈渡沢館、新城館、松山館〉（新城）
40 妻石館〈天狗田館〉（霞沢）
41 古館（霞沢）
42 長福寺館（小綱）

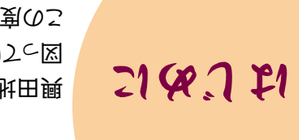
史跡



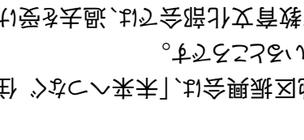
43 文久山高炉〈文久鉄山〉（市ノ通）



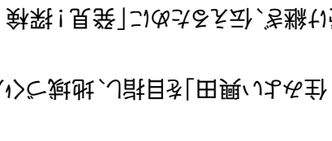
44 京津畑高炉〈文久新山〉（根岸）



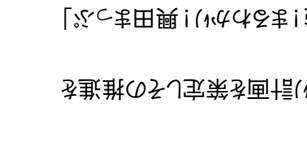
45 小綱塾（小綱）



46 文治塾（下構）
幕末日本の夜明けに生涯を捧げた医者・蘭学者の高野長英が11歳〜16歳の間に祖父高野元端と共に興田で過ごし、12歳の時に元端の文治塾の分塾として「小綱塾」が作られ、子供達に学問を教え自らも磨いたとされている。「文治塾」は文化11（1814）年から5年間、水沢藩医の元端が興田で開業の傍ら地域の人々に漢学を教えるために開いた塾。長英もここで学んでいる。



小綱塾



47 鳥海の柵（西舘）
平安時代、安倍頼時父子の住んでいた所だと伝えられている「鳥海柵」擬定地のひとつとされたが、平成25年に金ケ崎町の遺跡が鳥海柵跡として国の史跡に指定された。

参考文献

「伊東八郎伝」伊東鉱一
「一関市大東町の文化財」 一関市大東支所
「いわてのお寺さん ～一関・平泉とその周辺～」 株式会社テレビ岩手
「旧中川村の民俗 ～岩手県東磐井郡大東町旧中川村～」 東洋大学民俗研究会
「郷土史研究 興田史談」 興田史談会
「郷土史研究 興田史談 第6号」 興田史談会
「郷土の先哲 偉大な書家小山竹斎」
「郷土を学ぶ ～興田の史跡と民族芸能～」 興田史談会、大東町教育委員会
「室蓬譲水の里 大東町の文化財」 大東町教育委員会
「図説 胆江・両磐の歴史」 株式会社郷土出版社
「仙臺叢書封内風土記第三巻《複刻版》」 平重道、田辺希文
「大東町史 上・下巻」 大東町
「大東町のむかしばなし（初版）」大東町教育委員会
「ふるさとの歴史 興田史談」 興田史談会、興田市民センター
「文化財調査報告書第 7集 大東町の古碑」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第 9集 大東町の文化財 ～歴史散歩の友に～」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第10集 大東町の神社」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第11集 大東町の寺院」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第14集 大東町の鉄文化」大東町教育委員会
「文化財調査報告書第15集 増補 大東町の城館」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第18集 大東町の古道」 大東町教育委員会
「文化財調査報告書第24集 大東町の地名」 大東町教育委員会

編集・発行　興田地区振興会（一関市大東町鳥海字細田19-2　電話 0191-74-2201）　平成31年3月31日発行

石碑

48 菊池五郎兵衛生祀碑（大門）
文政9（1826）年6月建立。田畑養蚕等に力を尽くし篤行の多かった人で、78歳になっても壮者を凌ぐ元気な五郎兵衛を讃えて、肝入で学者であった金市郎太夫が建てた。

49 顕甚十郎墓（上野）
天明2（1782）年7月建立。田辺希元に尽くした甚十郎を讃える漢詩「為人朴直終身献畝勤勉農作至老尚勤子弟不已」が記されている。

50 芭蕉翁句碑（下構）［写真右］
慶応3（1867）年10月12日建立。芭蕉の回忌日を占って、小山竹斎が主宰者であったと思われる興田連の仲間で建てた。碑文「道の辺の木槿は馬に喰われけり」は竹斎の書であり、両側面には興田連23名の作句が刻まれている。

51 天狗田祠碑（天狗沢）
安永5（1776）年9月朔日建立。天狗田村名の由来と天狗田神社の霊験あらたかなることについて刻まれている。芦東山77歳の撰文。

52 小山竹斎頌徳碑（本宿）
明治28（1895）年建立。岡千仞撰文。竹斎（雅号:本名は兵蔵）は書道に優れ、後年に塾を開き、また沖田小学校（築館小学校）初代の校長として子弟教育に身を捧げた。

53 忠魂碑（西舘）
明治33（1900）年10月建立。榎本武揚篆額依田百川撰の碑で、鳥海柵は源頼義が安倍頼時父子を討った所であると刻まれている。

地蔵

54（上構）

55（西舘／良田橋）

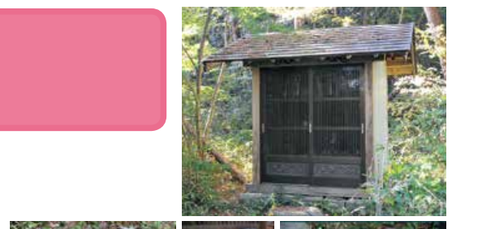
56（西舘／西光寺）

57（久子沢）

58（高屋敷）

59（菅ノ沢）

54〜59 六地蔵　上構、西舘（良田橋）、西舘（西光寺）、久子沢、高屋敷、菅ノ沢の6箇所に祀られている。明和8（1771）年、父より先に病死した息子の供養に建てられた。また、建立当時の興田は4つの村に分かれており、それぞれの地の分かれ道などに建てられ、村々の守護も込められている。



60 地蔵山（柳ノ平）
柳ノ平の山頂にある御堂に天保3（1832）年、二丈五尺（約7m59㎝）の地蔵菩薩を建立し奉安されていた。年7回の祭日が盛んに行われていたが、神仏分離令以降は僧侶のみの施餓鬼が行われるようになったとされる。100年以上前の火災により地蔵像の両手首と左耳だけが残された。

61 地蔵峠（中山）　詳しくは裏面昔話参照。